

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 1 区分

【発行日】平成24年11月22日 (2012.11.22)

【公表番号】特表2012-504408(P2012-504408A)

【公表日】平成24年2月23日 (2012.2.23)

【年通号数】公開・登録公報2012-008

【出願番号】特願2011-529582(P2011-529582)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 0 7 K 7/06 (2006.01)

C 0 7 K 7/08 (2006.01)

C 0 7 K 16/18 (2006.01)

C 1 2 Q 1/02 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 K 39/395 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/04 (2006.01)

G 0 1 N 33/574 (2006.01)

C 1 2 P 21/08 (2006.01)

【 F I 】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 14/47

C 0 7 K 7/06

C 0 7 K 7/08

C 0 7 K 16/18

C 1 2 Q 1/02

A 6 1 K 45/00

A 6 1 K 39/395 D

A 6 1 K 39/395 N

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/04

G 0 1 N 33/574 A

C 1 2 P 21/08

【手続補正書】

【提出日】平成24年10月2日 (2012.10.2)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

抗体またはその F a b フラグメント、F v フラグメントもしくは s c F v フラグメントである、17 以下のアミノ酸からなり、そして配列番号 1 のアミノ酸配列を含むエピトープ配列との選択的相互作用が可能な親和性リガンド。

【請求項 2】

前記エピトープ配列が、配列番号 3 および / または配列番号 4 のアミノ酸配列を含む、

請求項 1 に記載の親和性リガンド。

【請求項 3】

請求項 1 または 2 に記載の親和性リガンドを含む、大腸癌を有する哺乳動物被験体の予後を確立するための診断用組成物。

【請求項 4】

予後作用剤としての請求項 1 または 2 に記載の親和性リガンドのインビトロでの使用。

【請求項 5】

大腸癌を有する哺乳動物被験体の予後が、対照予後より不良であるかもしくはそれに匹敵するかどうかを決定するための方法であって、以下の工程：

a) 前記被験体からより早期に得られたサンプルを提供する工程；

b) 請求項 1 ~ 2 のいずれか一項に記載の親和性リガンドを使用して、前記サンプルの少なくとも一部に存在する配列番号 1 のアミノ酸配列を含むタンパク質の量を評価し、そして前記評価した量に対応するサンプル値を決定する工程；

c) 工程 d) において得られた前記サンプル値と前記対照予後に関連する対照値とを比較する工程；ならびに

前記サンプル値が前記対照値以下である場合、

d) 前記被験体の前記予後は、前記対照予後より不良であるかもしくはそれに匹敵すると結論付ける工程、を含む、方法。

【請求項 6】

前記サンプルが大腸癌組織サンプルである、請求項 5 に記載の方法。

【請求項 7】

工程 b) の前記評価が、前記サンプルの細胞の核に限定される、請求項 5 ~ 6 のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

a) 請求項 1 ~ 2 のいずれか一項に記載の親和性リガンド；および

b) 前記親和性リガンドの量を定量するのに必要な試薬

を含む、請求項 5 ~ 7 のいずれか一項に記載の方法を行うためのキット。

【請求項 9】

17 以下のアミノ酸残基からなり、そして配列番号 1 のアミノ酸配列を含む、単離されたポリペプチド。

【請求項 10】

配列番号 3 および / または配列番号 4 のアミノ酸配列を含む、請求項 9 に記載のポリペプチド。

【請求項 11】

モノクローナルまたはポリクローナル抗体の製造における、免疫化において抗原としての、請求項 9 ~ 10 のいずれか一項に記載のポリペプチドの使用。

【請求項 12】

親和性リガンドの選択または精製における請求項 9 ~ 10 のいずれか一項に記載のポリペプチドの使用。